

夢に向かって

チャレンジ精神を大切に——

齋藤 莉々椛 さん (県北中3年)

私の夢は塾の先生になることです。学校の先生も考えましたが、ひとつの教科だけでなくいろいろな教科を教えることができたり、生徒たちとより近い距離で接することができることに魅力を感じました。

私自身、塾に通い始めて数年になりますが先生とはとても仲良しで、家族には話づらいことも相談にのってもらっています。勉強のことだけでなく、日常生活のことも相談できる存在というところも、塾の先生を目指すきっかけのひとつになっています。

塾の先生になったら、全教科教えられるような先生になりたいと思っています。そして、生徒たちと気軽に話ができ、いろいろな相談に乗ってあげられるような存在になりたいです。

夢の実現のためにももちろん勉強は頑張っていますが、人前に出て話すことが苦手なので、克服するために部長や生徒会の副会長にも立候補しました。その他にも、積極的に人前に出て話すように心がけています。

今年度は、最上級生や部活動の部長、生徒会副会長という責任のある立場になりました。志望校も決まっているので、1・2年生の時よりも自覚を持って勉強や部活動に取り組みたいです。また、日々の過ごし方にも気を付けて残りの学校生活を送りたいです。



生徒会副会長を務める齋藤莉々椛さん。苦手を克服するため、いろいろなことにチャレンジしています。夢を語る姿はとても生き生きして、輝いていました。

町長コラム



ま 真 ころむ

【第10回】

春に励まされて

新型感染症が流行ろうが、地震が来ようが、過疎指定されようが、春は来る。花は咲く。紅梅、雪柳、連翹、桜、椿、白木蓮、桃、はなかいどう 花海棠、たんぽぽ 蒲公英…。自然は変わらない。人の都合なんか気にしない。彼らは、一つ高い次元にいるような、突き抜けてるような。

心躍らせ、胸膨らませ、新しい日に踏み出した人たちを祝福しながらも、鉛を呑んだような、晴れ晴れしくない3年目の春が過ぎる。

何年前からだろう、ゴツゴツした庭石の窪みに躑躅が根を張っている。こぼれた種から芽吹いたもの。環境は最悪だと思う。だから背丈も幅も3センチほど。一向に育たない。花を咲かせたこともない。見るたびに「元気か？ よりによって何でここなの？ もっと生きやすい所があったらうに」と思ってしまう。



でも、小さく儂げだけど生きてる。凛としてる。逆に諭されてるのかも。庭石の上にいる躑躅。国見から出ようと思わなかった自分。厳しい場所にいる木や花や草は、人が勝手に「苦」と思ってるだけで、彼らはここが自分の居場所、生きる場所だと顔を上げて宣言してるのかもしれない。そう思うとまた前を向ける。

引地 真